仲間と共に切り拓く、めっき業界の未来

全鍍連　環境副委員長　髙村　将名
（有限会社高村工業所／神奈川県メッキ工業組合）

私自身、めっき業界で仕事を続ける中で、この数年の変化の大きさを強く感じている。後継者不足などを背景に、身近な同業者が廃業する話も増えてきた。しかし一方で、業界全体を見渡せば、売上が大きく落ち込んでいるわけでもなく、仕事がなくなっているわけでもない。だからこそ今、業界として、そして組合の仲間として、この変化にどう向き合うかが問われているのだと思う。

海外に目を向ければ、楽観できない現実もある。海外企業の技術力や生産性は年々向上しており、価格だけでなく品質面でも確実に力をつけてきている。こうした流れの中で、国内のめっき業者が単独で対抗するのは簡単ではない。だからこそ、個々の企業だけでなく、業界として、仲間同士でどう力を合わせていくかが重要になる。

事業所数が減る中で、生き残りをかけた課題を知ることの重要性が高まっている。ただし、仕事を増やすことだけを目的に、不採算な案件を無理に引き受けるべきではない。自社のコストを正しく把握し、納得できる条件で受注することが基本である。組合は、各社が健全な経営を維持するための情報交換の場として大きな支えになる。

また、新しいことに取り組む姿勢は欠かせないが、何でも一社で抱え込む必要はない。規模の大きな企業が拡大路線を取る一方で、規模の小さい企業には小さいなりの強みがある。その強みを活かすためにも、組合を通じた同業者同士の連携やネットワークは、これまで以上に重要になってくるだろう。

環境配慮への対応も、避けて通れないテーマであることは間違いない。対応には手間やコストもかかるが、これは単なる負担やリスクではなく、各社が主体的に取り組むことで企業価値を高める機会でもある。環境への姿勢は取引先や社会からの信頼につながり、結果として選ばれる企業になるための重要な要素だ。地道な積み重ねではあるが、こうした個社の努力こそが、業界全体の評価を底上げしていくと私は感じている。

めっき業界は、変化の中にありながらも、まだ多くの可能性を秘めている。大きな企業だけが残る業界ではなく、多様な規模の企業がそれぞれの立場で役割を果たしながら共存していく業界でありたい。そのためにも、一社で抱え込まず、仲間と手を取り合うことが何より大切だ。難しい話はさておき、共に酒を酌み交わし、腹を割って語り合う――そんな時間の積み重ねが、業界の次の一歩をつくっていくのではないだろうか。